



## 宇部市の小・中学校における環境教育の推進に向けて



宇部市教育委員会 教育長 野口 政吾

宇部市教育委員会では、今年度、「子どもの学びと育ちを保障する教育の推進」を学校教育重点目標に掲げて、ふるさとを愛し、未来を拓いていく児童生徒の育成に取り組んでいます。持続可能な未来を創造することは宇部市が宣言する「SDGs未来都市」の考えにつながるものです。そのため、課題とされる環境問題にも関心をもち、美しい宇部市を後世につなげていくことができる「環境教育」は、大切にしている取組の一つです。

環境は私たちの生活の土台となるステージです。その中で自然や動植物のもつ美しさや生命の力に触れた子どもたちは、自然を守ろう、大切にしようとする思いを深めるでしょう。また、人間の力が及ばない自然の偉大さを感じた子どもたちは、自然への畏敬の念を感じ、自分を謙虚に見つめることでしょう。環境教育は、子どもたちの心を育むからこそ、大切な教育なのです。



## 宇部工業高等学校のESDの取組

宇部工業高等学校 教諭 大濱 進治

本校は、平成26年度から4年間、文部科学省指定事業でESD研究を取り組み現在も継続している。ESDの主幹は、「古代たたら製鉄復元創業」です。1昼夜徹夜の製鉄作業は、危険な作業が多いのでコミュニケーション力や共働作業力が必要となり、緊張した作業の中でESD力を身につけます。本年度は、本稿創立100周年で出来た玉鋼で日本刀を2振り、記念モニュメントを制作します。日本刀1振りは、市制100周年の宇部市に寄贈されるので生徒も自分たちの力で製造した玉鋼が形になることで充実感を味わうと思います。その他のESD活動は、移動理科実験教室、課題研究ESD研究、まじめ川清掃作業、ミズベリング事業、芝桜プロジェクト、うーばープロジェクト、宇部市北部地域振興バタフライピーブランド計画など多くのプロジェクトで行っています。ここで着目したいのは、宇部市文化スポーツ振興課主幹のうーばープロジェクトです。このプロジェクトは、宇部市の文化施設・文化財を使用して宇部市全体を美術館と見立てアートの活動しようという取組です。この活動には、私

反面、ごみの不法投棄や環境汚染などの環境問題については、美しい宇部市をつくる上で大きな課題です。

そこで、市内23の小中学校が「やまぐちエコリーダーズスクール」に指定され、環境問題の解決のため、「今の自分ができること」を考え、例えば「クリーン作戦」と題して地域の公園清掃を小中合同で行ったり、SDGsについて学んだあと、紙や水、電気の節約を全校に呼びかけたりしました。また、学校の教育活動として、花壇の整備をしたり、緑のカーテンづくりをしたりする学習を行っています。自然保護や環境保全の取組により、子どもたちは環境への意識を高めています。

もしよろしければ、下記のページに紹介されていますので、ご覧ください。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/ecoschool/202103240001.html>

これからも宇部市の学校教育では環境教育を推進し、子どもたちの豊かな学びを実現していきます。



と生徒4名が取り組んでいます。この活動の中にVTS (Visual Thinking Strategy) というものがあり、アート鑑賞を通して「観察力」「批判的思考力」「コミュニケーション力」を育成する教育カリキュラムです。これは、鑑賞者がアートを見て考え、意味を見いだす経験をし、鑑賞者同士が互いの感想を語り合う事で、物事を体系的に考える力やコミュニケーション力、推察力、問題解決力を向上させ、相手を尊重し民主的問題解決能力も向上させる事が期待できます。生徒は、このプロジェクトに関わり、自信を付け自己肯定力が向上しました。そして、「宇部新川起点計画」と言うプロジェクトを立ち上げました。これは、宇部新川駅に宇部蒲鉾株式会社から提供してもらう蒲鉾板にイラストなどのいろんなアートを全世界の人に描いてもらい、全世界の人たちのアートの発表の場に、宇部新川を知ってもらう計画です。宇部新川駅は、この度、宇部市出身の庵野秀明監督制作「シンエヴァンゲリオン」で紹介されました。庵野監督がくれたプレゼントを宇部市発展復興のために役立てるべく生徒が命名し、宇部市民アートコミュニケーターで企画したものです。この広がりが、ESDを向上させ、地球規模のSDGsに繋がるように願っています。

## 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

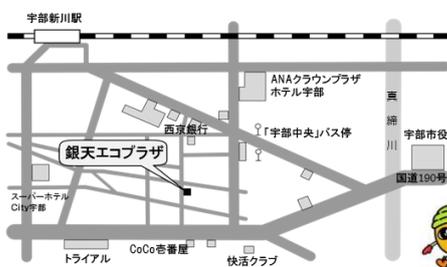
宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail [ubekuru@gmail.com](mailto:ubekuru@gmail.com)

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始（12月29日～1月3日）



Home Page



facebook



twitter



指定管理者 NPO 法人うべ環境コミュニティ

## 手掛かりは「懐かしい未来」の中に

(株) オープンハウス代表取締役 益田 文和



人間の営みが自然環境に影響を与え始めたのは18世紀後半、イギリスの産業革命以降だろうと言われています。日本ではまだ長州藩の時代です。しかし、今日のような急速な地球環境変化が起きたのは最近のこと、20世紀も後半の事と考えられます。私はその頃生まれていますから、当時の記憶が残っています。幼少期を過ごした東京では、クリスマスには雪が降りました。夏には井戸水で冷やしたスイカにかぶりつきました。風呂は薪で焚いていました。東京の真ん中でも祖母が畑でイチゴからカボチャまでいろんな野菜を作っていて、卵は毎朝鶏小屋から温かいのを取ってきました。電気製品は天井からぶら下がった裸電球とラジオだけでした。生ごみはニワトリの餌にするか畑の肥料にして、紙はチリ紙交換、金属は廃品回収に回したので、ほとんど捨てるものはありませんでした。1950年代、私たちの暮らしにはまだプラスチックという便利な厄介者が入ってきていなかったのです。

小学校から中学校へと進む間に洗濯機、冷蔵庫、テレビなど、電機製品がだんだん増えてきて、風呂もガスで沸かすようになり、トイレも水洗になりました。高度経済成長期です。

それからというもの、このままでは地球と現代文明はだめになるよという警告を受けながらも、日本の産業と経済は公害をまき散らしながら成長を続けてきました。工業デザインという仕事をしていた私は、人々の暮らしを便利で豊かにするという名目のもと、膨大な資源とエネルギーを消費する様々な製品の開発に携わってきました。

2011年の東日本大震災と福島原発事故を契機に立ち止まった私は、ふと見上げた真っ青な空に、何もなかったけれど幸せだった子どもの頃を思い出し、やり直そうと決めました。

ご縁があって今、宇部北の楠に電気もガスも水道さえ繋がっていないオフグリッドの小屋を建てて、時代を巻き戻すデザインを始めています。

オフグリッドの社屋（宇部市楠）



## うべ環境コミュニティー会員 ほっと コラム



### 私の環境対策実践

溝田忠人（宇部市地球温暖化対策ネットワーク代表）

みかんの皮を重さ既知のふた無しプラ容器などに入れて重さを測る。秤は千円くらいのデジタル秤がよい。温かいテレビの上にこの皮入り容器を置き、時間をおいて重さを測り「減量%—時間」のグラフを作る。2-3日もすると75%も重さが減るのが分かる。

1kgのみかんの皮をそのまま生ごみに出すと、市の焼却場では、上記の750gの水分蒸発に、1.7MJ（メガジュール）の熱が要る。この皮のために約40ml（ミリリットル）の重油が必要。乾いたみかんは後で燃えてかなりの熱を供給できるが、野菜などの生ごみはもっと水分が多いので厄介だ。結局宇部市では年間20億円近い燃料代が必要とのこと。雑草などは天日で乾かして75%重さを減らして出せばそれだけ重油を使わずに済むが、生ごみに出さない方がもっと良い。

庭があればコンポスト、すなわち有機肥料を作れる。我が家の5坪ほどの畑は、順繰りにいろいろなものを作る、収穫後にコンポストなどを入れて耕す。父から



習った方法は、溝を1列掘り、コンポストや生の草を入れ、隣に2列目の溝を作りながらその土で埋める。表面の土が深い所へと上下ひっくり返すと、雑草の種の発芽を抑える。何列か溝を掘りながら畑全体を耕す。1年では分からないが、何年もこうやって耕していると土がほくほくになり、ミミズなどの土中生物も増えてよい土になる。コンポストや草は良く腐食・発酵していなくても、ほとんど生でも大丈夫、埋めてしまえば臭くない。1年経つときれいな土になる。昔はクワでやっていたが少々体力が要るので、最近ではスコップでゆっくりやっている。コンポストを作るには、下が土の1m2ほどの場所を確保して雨のかからない囲いと屋根を作る。ホームセンターでコンポスターを買ってきて置いてもいい。生ごみや草を入れて、同時に庭の土を時々混ぜてやれば良い。ほとんど臭くはならない。畑を耕す時に適当にこれを半生でも良いので入る。いっぺんに広いところは大変だが、少しずつなら出来る。



オシドリ（宇部市川上の岩田池にて：2021年3月撮影）

### 本を読んで：ゴミ清掃員の日常 ミライ編

原作/滝沢秀一 まんが/滝沢友紀 講談社2020年

新型コロナ禍のなか、ゴミ清掃員の現場は大変そう。この本では、お笑いコンビの芸人でゴミ清掃の仕事を兼業する著者と妻の漫画家が実体験をもとにストーリーを展開。詰め込み過ぎない、しっかり結ぶ、分別やゴミ出しマナーの良しあしは近所に伝染するなど、具体的でよくわかります。

自宅療養や市中感染が増える昨今、マスクなどが入った袋が破れたら収集作業や処理場スタッフを危険

にさらすことに要注意です。家庭からのフードロス、開封前の食品の無駄は悲しい。フードバンクをもっと身近に、食べ残しも減らしていきたい。副題に「あたらしい時代で、しあわせになるゴミ出し術」とあり、子どもたちにもわかりやすく、家庭や教室で取り組むヒント満載。宇部市立図書館蔵書(H.M.)。

